

前期選抜学力検査

2020.3.4

今日はいよいよ初めての「前期選抜」が行われる日である。昨年度までの入試制度との大きな違いは、県立高校を受験する生徒の全員が本日の「学力検査」に臨むという点である。

だいぶ昔のことになるが、私自身の高校受験を振り返ってみる。あの頃は、昨年度までのI期選抜や今年度からの特色選抜のようなものは存在していなかった。わかりやすくシンプルに250点満点の学力検査がすべてだった。

私は、ごくごく当たり前にまずは“すべり止め”として私立高校を受験した。予定通り合格できた。「これで高校生にはなれる」という一応の安心感のもと、次は本命の県立高校の入試に向けて最後の追い込みに入った。

しかし、入試直前になり、あり得ない事態となった。何と熱を出してしまったのである。それまで学校を休んだことなどなかった私だが、とてもとても学校に行ける状態ではなかった。数日の間発熱が続き、入試前日も登校できなかった。大事な連絡も聞くことができなかった。さすがに焦った。自分は受験できるのかと。

試験当日、朝起きてみると、前日までよりは状態はよかった。とは言っても、何だかフワフワしているような感じで、まだ熱はあるような気がした。とりあえず入試に行くしかなかった。もはや開き直りである。今でも覚えているが、1時間目の国語は、それまで数日間寝込んでいたせいもあってか調子が出なかったというか、脳みそが働かなかった。こんな状態でも何とか5時間目まで受験できた。

次の日、緊張しながら新聞の模範解答をもとに自己採点をした。この頃のシステムだと、自己採点の結果でおおよそ合否の見当がついた。まずは頭が働かなかった国語、次は数学と自己採点をしていった。結果は、最悪に近いコンディションとしてはまずまずであった。かといって合格できるかは何ともわからない。入試は相対的な勝負である。自分としてはうまくいったとしても定員が決まっている。自分よりも上の方がたくさんいれば合格できない。あるいは、頭がボーとして解答欄がずれているかもしれない。合格発表までの数日間は何とも言えない気分を過ごした。

今日は、福島県内の多くの中学3年生がそれぞれの受験会場で勝負に挑んでいる。例年以上に会場となる高校側も受験する中学生も感染症対策に気を配りながらである。中学校は昨日あるいは今日から臨時休校となっている。受験生の中には、一時自分の受験はどうなるのかと不安に思った生徒もいることだろう。各方面の努力により、何とか県立高校入試は実施できている。万が一に備えて、3月11日（水）には追検査も設定されている。

受験生は、熱を出していた私とはまた違った意味で落ち着かない数日間だったかもしれない。しかし、条件は皆同じである。今まで積み上げてきた学習の成果を遺憾なく発揮してほしい。多くの中学3年生にとって高校入試は人生最初の大きなハードルである。ハードルは跳び越えないと前には進めない。健闘を祈る。